シェルを使おう - 応用編 -

lilo-bk 友國哲男

1.1 仕組み(1)

リダイレクトとパイプの原理及び注意点は次の通りである。

- □リダイレクトより先にパイプのファイルディスクリプタ処理を行う。
- □左から順に評価される。
- □dup2(2) はオブジェクトの複製をする。
- □パイプはサブシェルで実行される。
 - 実装によってはパイプの最後段のみカレントシェルで実行されるものがあ
 - ○この場合(当然だが)最後段での変数操作の結果がその後も有効である。

1.1 仕組み(2)

(例 1)

\$ command >file

□標準出力が file に出力される。

\$ command 2>file

□標準エラー出力が file に出力される。

\$ command >file 2>&1

□標準出力と標準エラー出力ともに file に出力される。

\$ command 2>&1 >file

□標準出力が file に出力され、標準エラー出力は標準出力(この場合は端末)に出 方される。

1.1 仕組み (3)

\$ command1 | command2

□command1 の標準出力が command2 の標準出力にパイプで結合される。

\$ command1 2>&1 | command2

ロまず command1 の標準出力が command2 の標準出力にパイプで結合され、その後パイプの前段の標準出力に command1 の標準エラー出力が結合される。

□結果として command1 の標準出力と標準エラー出力が command2 の標準出力 に結合される。

1.2 標準エラー出力のみをパイプ (1)

パイプの後段に標準エラー出力「のみ」渡すにはどうしたら よいだろうか?

\$ command1 2>&1 >/dev/null | command2

- □(1) 標準出力がパイプで command2 に接続
- □(2) 標準エラー出力を標準出力にリダイレクト
- □(3) (もともとの)標準出力を /dev/null にリダイレクト

結果的に

□もともとの標準出力

∘/dev/null ∧

□もともとの標準エラー出力 ∘command2 ヘパイプ

となる。

1.2 標準エラー出力のみをパイプ(2)

\$ command1 3>&1 >/dev/null 2>&3 | command2

□(1) 標準出力がパイプで command2 に接続

□(2) ダミー(ファイルディスクリプタ 3 番)を標準出力にリダイレクト

□(3) (もともとの)標準出力を /dev/null にリダイレクト

□(4) 標準エラー出力をダミーに その結果標準出力にリダイレクト

結果的に

□もともとの標準出力

∘/dev/null ∧

□もともとの標準エラー出力

○command2 ヘパイプ

□ダミー(fd 3)

○オープンしたまま(コマンド終了後クローズ) となる。

1.2 標準エラー出力のみをパイプ (3)

\$ command1 3>&1 1>&2 2>&3 3>&- | command2

□(1) 標準出力がパイプで command2 に接続

□(2) ダミー(ファイルディスクリプタ 3 番)を標準出力にリダイレクト

□(3)(もともとの)標準出力を標準エラー出力にリダイレクト

□(4)(もともとの)標準エラー出力をダミーに その結果標準出力にリダイレクト

□(5) ダミー(ファイルディスクリプタ3番)をクローズ

結果的に

□もともとの標準出力

○端末(画面)へ

□もともとの標準エラー出力

∘command2 ヘパイプ

ロダミー(fd 3)

○一時的にオープンされて処理後クローズ となる。

1.2 標準エラー出力のみをパイプ (4)

(参考) [lilo:22219] より

ping の結果を more で確認しつつ ping の終了コードを得る場合は、 次のようにするとよい。

\$ stat='exec 4>&1:

> { ping -c hoge 2>&1 4>&-; echo \$? 1>&4; } | more 1>&2 4>&-' \$ echo \$stat

2 ループ文のパイプ/リダイレクト処理 --- ループ文での注意 (1) ------ ループ文での注意 (2) --for や while 等のループ文にもリダイレクトやパイプが使える。 \$./roop1.sh < roop1.sh 2: while read line \$ for i in *.txt; do echo \$i; done > textfile.list 3: do 4: n='expr \$n + 1' 5: echo "\$n: \$line" ただし、シェルスクリプト中のループ文でリダイレクトやパイプを 使用した場合、 Bourne Shell ではそのループ文がサブシェルで実行 6: done されてしまうので、変数等の扱いには十分注意しなければならない。 7: echo "total line = \$n" total line = 7 (例 1) リダイレクト、パイプ無し \$ cat roop1.sh | ./roop1.sh \$ cat roop1.sh 1: n=0 n=0 while read line 2: while read line 3: do 4: n='expr \$n + 1' 5: echo "\$n: \$line" n='expr \$n + 1' echo "\$n: \$line" 6: done done 7: echo "total line = \$n" echo "total line = \$n" total line = 7

--- ループ文での注意 (4) ------ ループ文での注意 (3) ---(例 2) リダイレクト使用 (例3) パイプ使用 \$ cat roop2.sh \$ cat roop3.sh n=0n=0 while read line cat \$0 | while read line do do n='expr \$n + 1' n='expr \$n + 1' echo "\$n: \$line" echo "\$n: \$line" done < \$0 echo "total line = \$n" echo "total line = \$n" \$./roop3.sh \$./roop2.sh 1: n=0 1: n=0 2: cat \$0 | while read line 2: while read line 3: do 3: do 4: n='expr \$n + 1' 5: echo "\$n: \$line" 4: n='expr \$n + 1' 5: echo "\$n: \$line" 6: done < \$0 6: done 7: echo "total line = \$n" 7: echo "total line = \$n"

--- ループ文での注意 (5) ---

roop2.sh や roop3.sh のような場合にも \$n を保存する方法はある。 それは exec を使ってファイルディスクリプタを切り替えることで 実現可能である。(次節参照)

(注意)

total line = 0

最近の Bourne Shell 系の Shell (bash,zsh,ash) は 更にこれらとはちがう挙動を示すので、これまた要注意である。

□bash,sh(bash へのリンク),ash,pdksh ○roop2.sh のみ \$n が 7 になる □zsh

∘roop2.sh, roop3.sh 共に \$n が 7 になる

3 aval を田L \た連相配

total line = 0

--- 連想配列を使おう (1) ---

bash や zsh 等には既に配列の機能が備わっているが、 (オリジナルの) Bourne Shell ではその機能はない。 しかし eval を使うことで連想配列(まがい?)が実現できる。

(例) \$ i=1 \$ eval M_\$i='"January"' \$ echo \$M_1 January

これを応用すると例えば次のようなことが可能となる。

--- 連想配列を使おう (2) ------ 連想配列を使おう (3) ---\$ cat array.sh exec 3<&0 0<<EOF 実行すると、、、 exec 3<&0 0</p> 5 Thursday 2 Monday 4 Wednesday 7 Saturday 3 Tuesday 1 Sunday 6 Friday EOF 1-0 \$./array.sh 1 -- Sunday 2 -- Monday 3 -- Tuesday 4 -- Wednesday 5 -- Thursday while read j week 6 -- Friday 7 -- Saturday i='expr \$i + 1' eval M_\$j='"\$week"' done exec 0<&3 3<&-とヒアドキュメントの部分がソートされて出力される。 while test \$j -le \$i eval echo \\$j -- \\$M_\$j j='expr \$j + 1' done

eval を用いた連想配列

--- 連想配列を使おう (4) ---

(注意)

前節で少し触れたが、このスクリプト中の連想配列に格納している while 文に対して、パイプやリダイレクトを用いると後方で変数参照 できないために、1行目で exec を使って

□(1) まず exec 3<&0 で、標準入力(ファイルディスクリプタ 0) をファイルディ スクリプタ 3 に複製する。

□(2) 次に exec 0<<EOF ... で EOF 以下のヒアドキュメントを標準入力として入 力する.

とすることで、 while 文中の変数操作をその後でも参照できるように している。

また、この連想配列を格納している while 文が終わった直後に、 □(3) exec 0<&3 で、(もともとの標準入力を複製していた)ファイルディスクリタ 3 をファイルディスクリプタ 0 に複製することで、標準入力がもとに戻る

□(4) 最後に exec 3<&- で使い終わったファイルディスクリプタ 3 を閉じる。 とすることで、その後のスクリプトで影響がないようにしている。

--- 使った一時ファイルを消去 (1) ---

スクリプト中に一時ファイルを作ることはよくある。

そういう場合は、スクリプトが終了するときにその一時ファイルを 削除するようにするが、単にスクリプトの最後で rm しているだけ では、異常終了した場合(例えば Ctrl-C で中断したとき等)に

その一時ファイルが残ってしまう。

こういう場合には以下のように trap コマンドを使うと便利である。

\$ cat trap.sh

trap 'rm \$tempfile; exit' 0 1 2 13 15

--- 使った一時ファイルを消去 (2) ---

こうしておくと、スクリプト中で \$tempfile が作成された後に 異常終了(終了コードが 1,2,13,15)しても(この場合は 0 がある ので正常終了でも)最後に \$tempfile を消去して終わるので、 一時ファイルが残らない。

ただし上の例だと終了コードが 0,1,2,13,15 以外であるときは trap していないので一時ファイルは残ってしまう。 (ちなみに 9 (KILL)は trap できない)

--- popcheck.sh の詳細 (1) ---

1行目 シェルスクリプトを起動

3 行目 このスクリプトの名前

4 行目 設定ファイル

6-- 11 help 用関数

13-- 27 オプション処理

29 行目 (シェルスクリプトのオプションを引数から除去)

30-- 31 ポート,ウエイト時間デフォルト

33-- 68 設定ファイル読み込み or 無かったら exit

70-- 74 パイプ用,プロセス通信用名前つき FIFO 作成 (trap による終了処理込)

76--133 telnet で popserver に繋いで POP(APOP) プロトコルで通信 ('|' でパイプを繋いでいるのでサブシェルで実行)

135--238 (名前付き)パイプで繋いで後段処理

('{}' のみなのでカレントシェル)

240--254 メッセージ表示数 256--261 サブジェクト表示

263 行目 スクリプトの終了

--- popcheck.sh の詳細 (2) ---

76--133 の {} は || でパイプされているので、サブシェルで実行される。後段のtelnet も同様。よって変数もそのサブシェル内でのローカル変数である。パイプ の後段では telnet の標準出力を名前付きパイプ \$pipefile ヘリダイレクトしてお

また、パイプのの前段中で until 文で read する際に(実際にはあまり意味はないが)リダイレクトを使用しないようにファイルディスクリプタを操作 (exec 4<&0 0<&(tempfile)) している。

一方 135--238 の {} は前段での telnet の出力をパイプではなくファイルディスクリプタ操作 (exec 3<&0 0<\${pipefile}) と名前付きパイプを用いることによっ て、カレントシェルで実行される。こうすることでこの中の変数はカレントシェ ルのものであるので、後で値を参照できる。

しかしこの $\{$ 内部でも while 文にリダイレクトやパイプを使うと この while 文がサブシェルで実行されてしまい、変数のへの値の代入や変更がその内部のみ で有効となるので、ファイルディスクリプタを操作 (exec 5>&1 1>&{tempfile}) す ることによって、 while 文をカレントシェルで実行することにする。

--- popcheck.sh の詳細 (3) ---

こうすることで、 240--254 の部分で \$max を参照でき、また 256--261 の部分で先程のカレントシェルで実行された {} の内部で格納された連想配列を呼び出す ことによってサブジェクトを表示できるようになっている。

(単に表示するだけなら {} の内部の閉じたところで echo させてもよいが、こうしておくことによって後々の変更やメンテナンスに有用である。

ただしあまり沢山連想配列を使うとメモリを消費してしまうが、実際にはそれほど気にならないだろう。)

また 132 行目と 237 行目で exec によってそれぞれもとのファイルディスクリ ブタに戻しておき、その後のスクリプトに影響がないようにしている。

(132 行目はサブシェルで実行されているので別にいらないが一応つけておく)

Acknowledgement

参考にしたもの

□Bourne Shell 自習テキスト ohttp://www.tsden.org/takamiti/shText/ ロプロフェッショナルシェルプログラミング ∘アスキー, ISBN4-7561-1632-9

□LILO ML でのシェル関連スレッド

確認に使わせていただいたシェル

□しらいさん作の FD shell

ohttp://hp.vector.co.jp/authors/VA012337/soft/fd/

□PDP11 エミュレーション上の UNIX v7 の /bin/sh

□その他 Bourne Shell 系のシェル (bash, zsh, ash, pdksh)

最後に

資料は以下にあります。

http://www.netfort.gr.jp/~tomokuni/lms/shell/

ご静聴、ありがとうございました。 m(_o_)m

次回(まだやるのか?)もご期待ください。^^;

おしまい

popcheck.sh 3 popcheck.sh

```
stage=0
           num=1
while read line
do
case "$stage" in
0)
                       case "$line" in
    '+OK '*)
    stage=1
    case "$apop" in
145
146
147
148
                                 ase "$apop" in
apop|APOP"
set -- $line
shift 'expr $# - 1'
challenge=$1
echo -n "${challenge}${password}" | md5sum
;;
149
150
151
152
153
154
155
156
                             esac
                       esac
157
158
                       case "$line" in
'+OK'[0-9]*)
stage=2
160
161
                               echo $num
                              set -- $line
max=$2
case "$max" in
162
163
164
165
166
167
168
169
                                     ')
echo Error
;;
                              esac
case "$checkonly" in
on)
                                     break
171
172
                    subject=
subjcont=0
;;
esac
;;
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
                   case "$line" in
183
184
185
                              subjcont=0
186
187
                        esac if [ x"$subject" != x -a $subjcont -eq 1 ]
188
189
190
191
192
193
194
                          hen

case "$line" in

"'=?'*)

subjcheck='echo "$line" | grep '^=?'\

case "$subjcheck" in

'')
                                          subject="$subject "'echo "$line" | nkf -mde'
196
                                          subject="$subject" echo "$line" | nkf -mde
197
198
199
200
201
                                  esac
                                  ,
subject="$subject"\echo "$line
;;
```

popcheck.sh 1

```
1 #!/bin/sh
      Usage: $scriptfile [-h] [-c] [-f setting file]
10
11
12
      EOF
}
       while getopts cf:h opt
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
      do
          case $opt in
             c)
checkonly=on
                  settingfile="$OPTARG"
              h)
                 exit 0
           esac
26728
29031
33334
35637
38940
44544
45555555555555566162
      #shift 'expr $OPTIND - 1'
port=110
wait=0
      if [ -f "$settingfile" ]
           nen
exec 3<&0 0<${settingfile}
while read line
             case "$line" in
          do
                  'popserver '*)
set -- $line
popserver=$2
                 ;;
'username '*)
set -- $line
username=$2
;;
                 ;;
'password '*)
set -- $line
password=$2
                 ;;
'port '*)
                    set -- $line
port=$2
                 ;;
'wait '*)
set -- $line
wait=$2
;;
             ;;
apop|APOP|pop3|POP3)
apop=$line
;;
esac
      esac
done
exec 0<&3 3<&-
else
echo "No setting file!" >&2
exit 1
fi
63
64
65
66
67
68
```

```
206
207
208
209
210
                        'Subject: '*)
213
                                subject='echo "$line" | nkf -mde | cut -d " " -f 2-
214
215
216
                                 subject='echo "$line" | cut -d " " -f 2-'
                          subjec
;;
esac
subjcont=1
;;
217
218
219
220
221
222
223
224
                           eval subject_$num='"$subject"'
if [ $num -ge $max ]
then
225
226
                              num=0
                           num='expr $num + 1'
227
228
                           subject=
229
            esac
fi
;;
esac
ne
230
                           echo $num
231
232
233
234
235
236
237
          done
exec 0<&3 3<&- 1>&5 5>&-
      case "$max" in
             echo Error! Your account may be incorrect or used by other now. >&2 exit 1 _{\it ii}
243
244
245
246
247
248
249
250
             echo There is no email in your mailbox.
          1)
             echo There is an email in your mailbox.
251
252
253
             echo There are $max emails in your mailbox.
254
      esac
256
257
258
259
260
261
       while [ x"$checkonly" != xon -a $num -lt $max ]
      uo

num='expr $num + 1'

i='printf "%5d" $num'

eval echo \"'["\$i"]" Subject: \$subject_$num\"

done
262
263 exit 0
```

```
pipefile=/tmp/popcheck_pipe.${username}@${popserver}.$$
tempfile=/tmp/popcheck_temp.${username}@${popserver}.$$
trap "/bin/rm -f ${pipefile} ${tempfile}; exit 0° 0 1 2 13 15
mkfifo -m 600 ${pipefile}
mkfifo -m 600 ${tempfile}
 70
71
72
73
74
75
76
77
78
80
81
82
83
84
85
86
87
88
90
91
92
93
            exec 4<&u cold=0
old=0
sleep $wait
case "$apop" in
apop[APOP)
while:
do
until read response
do
:
                            :
done
case "$response" in
[0-9a-f]*[0-9a-f])
break
...
                              sleep 1
94
95
96
97
98
99
100
101
                         done
echo APOP ${username} ${response}
                        echo USER ${username}
sleep $wait
echo PASS ${password}
;;
102
103
104
                esac
sleep $wait
echo STAT
while :
105
               do
sleep $wait
while :
do
106
107
108
109
110
111
112
113
114
                        until read num
do
                        done
if [ x"$num" = xError -o x"$checkonly" = xon ]
116
117
                         break 2
elif [ $num -ne $old ]
                        then
break
fi
sleep 1
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
                     done
if [ $num -eq 0 ]
then
break
                      II
echo TOP Šnum 0
128
129
130
                    old=Snum
                 sleep $wait
         echo QUIT
exec 0c&4 4c&-
} | telnet ${popserver} ${port} >${pipefile} 2>/dev/null &
131
```